

## 「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（令和4年度採択）

## 中間評価結果（公表用／ハード分野）

番号	研究名	研究代表者	評価
2022-4	ICT と商用車プローブデータを活用した AI による道路維持管理システム	長崎大学 教授 松田 浩	A
<p>&lt;研究の概要&gt;</p> <p>道路点検にスマートフォン、ドライブレコーダー及び商用車プローブデータを活用し、高い品質と維持管理の効率化・高度化を図るとともに、路面劣化メカニズムを過去の点検データや道路台帳、交通量など様々な因子から分析し、AI を活用して次世代型維持管理計画策定手法を開発する。</p> <p>&lt;中間評価結果&gt;</p> <p>研究は順調であり、巡視や定期点検における各種データ（記録）を一元化することによる道路維持管理業務の効率化や、各種データとの因果関係整理により道路施策としての説明性向上が期待されることから、現行のとおり推進することが妥当であると評価する。</p> <p>&lt;参考意見&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・道路管理者と協働で利活用方法を検討するとともに、自治体管理の道路でも検証を実施いただきたい。</li><li>・所要の目的を達成するため、ひび割れ率の算定、道路物体検出などについて、その検出精度などのデータとともに、検出精度に影響するスマホやドラレコのカメラ性能などについても、所定の目的を達成するために必要なシステム性能をとりまとめていただきたい。</li><li>・想定される事例において、システムの構成や各部分の入出力なども項目として具体的に示したうえで、それぞれの精度も明らかにする必要がある。</li><li>・道路管理者と連携し、データの一元化と可視化がなされた次に、例えば研究目標である巡回記録と交通との因果関係の解析等、活用策の提案が行われ、または道路管理者からのフィードバックがなされることが期待される。</li></ul>			

※本中間評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第47回新道路技術会議において審議したものである。